

報告書

C班

観光×自然×PR ～高知を自然と好きになる～

プロジェクトの概要

プロジェクト名 高知の自然を守り隊
 実施日 12月9日
 場所 子ども食堂 とりこえ
 背景 森木さんが廃材を使ったキーホルダー作りをしていることを知って自分たちも子どもたちにキーホルダー作りをしてもらって高知の森林問題、自然について知ってもらいたいと思った
 目的 高知の自然について理解してもらう
 対象者 子ども食堂の子どもたち
 活動内容 廃材を使った木のキーホルダー作り→①木の素材を選んでもらう②ヤスリで削る③シールやペンでデコレーション
 高知県の森林問題についてのクイズ

成果

プロジェクトの成果→子供たちに木のキーホルダーを作ってもらうことで高知県の森林の現状や課題、魅力について知ってもらうことができた。また、木のキーホルダーに自分でデザインできるようにすることでキーホルダーを作れるようにすることで、オリジナルのキーホルダーを作ることができ、思い出として形に残すことができた。
 チームの成果→高知県の森林問題についてクイズや模造紙を使い、説明することができた。また、廃材を活用し廃材の価値を高め、木の多様な使い方を実際に体験して教えることができた。

課題

森木さんから教えてもらった知識などを活かして子供たちに向けて木のキーホルダー作りやクイズといった形で森林の問題について知ってもらうことができた。
 プロジェクトの課題
 子供たちがどの程度理解できたのか、当初考えていたアンケートを取ることができなかった。そのため目的を達成できたのかははっきりと確認することが出来なかった。
 チームの課題
 行動が遅くなってしまいプロジェクトの準備がギリギリになってしまった。そのため万全な準備ができなかった。プロジェクトを進めていく中で人任せになってしまう場面があった。

今後の目標

①大学での学びを深める
 地域の課題を解決するための具体的な方法を探ったり、自分たちの行った活動によってどのような効果があったのかを調べる。
 ②これからも地域に貢献できる活動を行っていく
 高校での経験を活かして大学ではさらに視野を広げ、より実践的な形で地域の課題解決に取り組んでいく。

謝辞

この活動を通じて、多くの方々にご協力いただきました。廃材の提供に加え、森林について教えてくださり、活動のアドバイスをくださったひなむぎ工房の森木様、ワークショップの開催場所を提供してくださった子ども食堂鳥越様、そして私たちの活動を支えてくださった先生方に、心より感謝申し上げます。皆様のご支援があったからこそ、この活動を実現することができました。本当にありがとうございました。

写真・資料集



01 プロジェクト概要

タイトル：復活！大名行列
(観光★旅行★スポーツ)

★プロジェクト名 お遍路プロジェクト

【実際にお遍路をした日】

●日時：2024年3月28日

●場所：第30番札所 百々山 東明院 善楽寺～
第32番札所 八葉山 求聞持院 禅師峰寺



背景

修学旅行で訪問した企業先「JSTA（日本スポーツツーリズム推進機構）」
の方に自分達のプロジェクトの方向性を相談した

「高知県ってお遍路が有名」

「お遍路を使ってプロジェクトを進めてはどうですか？」

というアイデアを頂き、「お遍路プロジェクト」を進めるようになった。



目的

外国人お遍路が自分達の
電子パンフレットを見る

↓

お遍路人口の増加

↓

地域活性化に繋がる

対象者

外国人お遍路



活動の内容

外国人お遍路に向けた電子パンフレットの作成

目標：私たちの電子パンフレットに計100人にアクセスしてもらう

【実行したこと】

★オリジナルキャラクター作り★計18箇所の宿へのアポ・ピックアップ

★アリーに英語を添削してもらう

他のお遍路サイトに掲載させてもらう（現在、一箇所に連絡したが断られた）

他人事・人任せ

⇒計画性が甘かった原因として1つ挙げられるのが人任せなところだ。「誰かがやってくれるだろう」「誰もやっていないから自分もやらなくていいか」などという気持ちがどこかしらにあったから、計画を立てる人もいなかったし、その分長引いていると考える。

目的・目標を見失っている

⇒パンフレットを完成させること、その次は印刷することが目的・目標になっていたと感じる。本当の目的は「外国人お遍路を増やし消費してもらうことで地域活性化に繋げる」ことだったが、その1部の外国人お遍路を増やすためにパンフレットを作成するという目標になっていた。結果プロジェクトはまだ達成できておらず、作成するだけで終わってしまっている。

今後の目標

沢山のひと繋がり、現状、電子パンフレットを作成しただけで何もすることが出来なかったの、電子パンフレットへ飛べるサイトを作成後、QRコードを作りサイトに飛びやすくするか、高知商業の公式ページに作ったサイトを載せてもらうかのどちらかをしたいと思っています。



02 成果と課題

□プロジェクトの成果

実際に電子パンフレットを作成した。実際にお遍路をしてみて、お遍路さんの苦勞や現状を知り、それに伴って作成した。アニメ好きという外国人の特徴を踏まえて、オリジナルのキャラクターを作成しアニメ風に工夫して作った。高知市内の18箇所の宿泊施設にアポを取ってパンフレットに掲載した。また、英語で製作したためアリー先生に確認してもらい間違いがないか確認した。載せるサイトをまだ見つけれられていないため、高知商業のホームページに載せてもらおうか、お遍路サイトにアポを取って載せてもらうようにする。

□チームとしての成果

班員の中でやりたいことがバラバラになってしまい、なかなかまとまらず結果、2つに分かれてプロジェクトを進めることになったけど、授業を通して班員全員で再度話し合いを進めていく中でお互いに企画が進んでないことがわかり、お遍路一本で実行していくこと決めた。そしてまたチーム全員が同じ方向を向いてプロジェクトを進めることができ、電子パンフレットを作成することができた。価値観が合わずチームが一つになれてなかったけど、話し合いを重ねることでお互いの意見を知り、尊重しあった結果最終的にはチームが一つになった。

□プロジェクトの課題

プロジェクトが達成できていない

作成した電子パンフレットを載せるサイトが見つかっていないこと

⇒作成した電子パンフレットを他サイトに載せてもらう計画を立てていたが、1件断られてしまいそのままである

QRコードを作れていないこと

⇒電子パンフレットのサイトにアクセスしやすいように、QRコードを作りいくつかお寺に置いてもらう予定だったが、サイトに載せていないこともあり作成できていない

パンフレットの印刷を発注していないこと

⇒形に残すという目的と、せっかく作ったパンフレットなので協力していただいた観光ナビツーリストセンターさんなどに紙のパンフレットを置かせていただこうと考えていたが、印刷をしていない

□チームの課題

計画性が甘い

⇒11月にはパンフレットのデザインは完成していたにもかかわらず、印刷することになったことでサイト載せてもらえていないままである。印刷もサイトに載せてもらうようにするのも同時進行できていなかったパンフレット完成するまでも、期限を決めずに作成していたから取り組み初めてから長々とパンフレット作りも伸ばしていた

謝辞

このたび、外国人の方々に向けたお遍路の電子パンフレットを作成する運びとなりました。これまでお遍路体験活動を通じて、多くの国内外の方々とともに四国八十八ヶ所巡礼の魅力をつかち合う機会に恵まれたことに、心より感謝申し上げます。

お遍路は、単なる巡礼の旅ではなく、自然や人々との出会い、自己と向き合う貴重な時間を提供してくれるものです。異なる文化的背景を持つ方々にも、この素晴らしい日本の伝統がより身近なものとなるよう、わかりやすい情報をお届けしたいという思いで、このパンフレットを制作しました。

これまで活動を支えてくださった地元の方々、お寺の皆様、そしてお遍路文化を大切に受け継いできたすべての方々に、深く感謝申し上げます。また、実際にお遍路を体験し、その魅力を世界へ発信して下さった外国人巡礼者の皆様にも、心よりお礼を申し上げます。

このパンフレットが、多くの外国人の方々にとって、お遍路の素晴らしいことを知り、実際に巡礼へと踏み出すきっかけとなれば幸いです。そして、お遍路を通じた文化交流が、より多くの理解と友情を育むことを願っております。

皆様の温かいご支援に感謝しつつ、今後もお遍路の魅力を広める活動に努めてまいります。

活動報告書

社会マネジメント科
地域実践コース

観光×遊び×イベント

TEAM E



REPORT

1. プロジェクト概要

名:シーボーンアート
日時:2024年12月17日/場所:うらと龍馬保育園

主な背景は前ページ同様。元々繋がりがある、浦戸小学校に気づいて、もっと小さい子どもたちに楽しんでもらいたい、海を綺麗にするという行動を身につけてもらいたい、と思ったのがきっかけで、浦戸保育園と繋がりイベント企画。

1. プロジェクト概要

名:シーボーンアート
日時:2024年11月5日/場所:高知商業高校

修学旅行で出会った日本渚の美術協会の本間さん夫妻に出会い、本間さん夫妻のアイデアによるイベントを高知でもすると決意。楽しみながら海を綺麗にするという考え方が他にはなくとも面白いと感じた。またそれと同時に、高知に貢献するためのイベントを行いたい、高知の良さを伸ばすイベントを行いたいと感じ、海と強い繋がりのある高知県でこのイベントを開催することに。小さい子どもたちにゴミ拾いで海を綺麗にするという行動を身につけてもらうためには楽しむことから入ること、高知の海を守る一つな手段にしたいと思ったのがきっかけである。

1. プロジェクト概要

対象者
文化祭にくる子ども達
うらと龍馬保育園の4歳児から5歳児

内容
文化祭 きてくれたお客様に、貝殻でアートを作ってもらい、海への関心を高める。
保育園 うらと龍馬保育園の近くの海辺に保育園児と高校生で行く。そこで、ゴミを拾うと共に貝殻を拾い、その貝殻などを使ってアクセサリーやキーホルダーを作ること、楽しみながら海の問題に直接触れてもらう。海をゴミから守るためのゴミ拾いという手段を、子ども達にとって楽しいものという認識でいてもらいたいと感じたため、あくまでもメインを貝殻拾いにする事で子ども達に直接メリットのある形にした。そこで拾った貝殻を使い、子ども達に自由に工作してもらい楽しい時間を作る。海を汚くしてはダメという意識を、海を綺麗にする(ゴミ拾い)という行動を行うことで身につけてもらう。

1. プロジェクト概要

目的

- ・高知の観光に貢献する
- ・高知の海を守る
- ・イベントと遊びを混ぜた企画実行
- ・子ども達に地域貢献を経験させる

社会マネジメント科地域実践コースである私たちは高知の観光名所である桂浜、そしてうみかめの産卵地をこれからの未来にも受け継ぐために私たちが行動するべきと考えた。そのため、私たちは研修旅行でお話を伺った本間さん夫妻の「シーボーンアート」という活動を実践することに決め、海のゴミを拾いつつ貝殻も拾い、貝殻でアートを作るという企画を計画。そうすることで、貝殻を拾う楽しさとゴミを拾うやりがいを知ってもらい継続させていきたいと考えた。

ANALYSIS

子ども達の声

また行きたい！

楽しい！ごみある！

ゴミや貝殻を拾っている最中も、「こんなゴミあるで！」「僕これで作る！」などの声があつてとても嬉しかった。心の底から楽しんでくれているのが伝わってきた。

ANALYSIS

大量のゴミが取れた。





写真・資料集

今後の目標

現状に満足せず、常により良いものを。

私たちは2年間学んできたものは本当にたくさんあった。その中でも特にずっと継続してやっていた、シーボーンアートでは課題を見つけ解決する、課題発見解決力がとても身についたと考えている。そのためこれから社会に出て常に意識していきたい、目標にしていきたいと思うのは常に上を目指すことである。現状に満足するのではなく、何か改善点は無いのかと考えることを意識し、さらに良いものを作り上げていきたいと考えている。私たちは活動を自分のためだけでなく人や物のために活動することが多かったため、常に良いものを提供するという気持ちで、これからも活動していけたらと考えている。人のため物のためと活動していくことが、やがて大きな地域貢献につながってほしいと考えている。

「F チーム 生徒作成報告書」

Fグループ 目指せ！日本一野菜が好きな県

メンバー：

修学旅行テーマ：観光・食・旅行

主な活動：子ども食堂 イベント

企画概要

日時：2024年12月9日月曜日18～19時 場所：子ども食堂とごえ
目的：①子どもの野菜嫌いを無くす ②高知の野菜を知ってもらい 食べてもらう
実施内容：①ピーマンの蒸しパンの提供、調理 ②アンケート
対象者：小学生とその保護者
背景：2年生のときに受けた先輩からのプレゼンで「引き継いでほしい」と言われた
全国トップの高知県産野菜が多くあるのに対し、それは子どもの嫌いな野菜上位だった

アンケート結果

- 食前、食後のピーマンの好き嫌い
食前/好き68%嫌い/32%
食後/好き88%嫌い/12%
蒸しパンを食べた後、ピーマン嫌いが20%減った!!
- 高知の野菜しゅっやう？
はい/63% いいえ/36%
高知県民なのに知らない子どもが半数近い

プロジェクトの課題

- ①資金不足
資金がもう少しあればもっと多く提供できた
- ②計画不足
1回目の波 (17:30) で蒸しパンがほぼ完売して
2回目の波 (18:30) の分が少なくなった
- ③効率の悪さ
アンケート係の忘れ物、調理場に人が多すぎる
など、アンケートで話しかけられないなど
- ④私がやりすぎた
チラシ、企画書、アポ、LINEでの話し合い全部
やったためみんなの仕事が奪ったかもしれない

成果

- アンケートから
- ①ピーマンの蒸しパンを食べたからピーマンが好きな人が20%増えた
 - ②子ども食堂から「若い人の方が明るくなったから定期的に継続してほしい」と言われた
 - ③保護者から「食わず嫌いが克服できた」と3～4人の保護者から言われた
 - ④色んな先生から「面白いところに目をつけたね!」と言われた

チームの課題

- ①役割の偏り・積極性のなさ
私がやるが多かった。割り振られるけど、割り振るまで動いてくれないことが多かった
- ②集中力のなさ
話し合いの時に別の話をしたり、寝てしまったりすぐ終わる話し合いが長引いてしまった

今後の目標

子ども食堂企画が社マネの伝統になること!!
12年生へのプレゼンで「子ども食堂とごえ」をアピールしたのであるはず!!
資金になる資金をもらうためにイベントに参加したり、今回のような成果がある現状調査を行い、長期計画のイベントを行ってほしい。
これからは積極性を引き出せるリーダーシップをとりたい



参考資料



宣伝チラシ



書類



課題の振り返り
何度か話し合いを行いイベント内容を確認することができていたが自分たちで実際に作ったり試作をすることができなかったため当日の調理をスムーズにすることができなかった。また、多くの人に来てくれ蒸しパンを食べてくれた最後のほうには蒸しパンを試食してもらうことができなかった。多くの人が来た時や帰る時にアンケートの実施を呼びかけることができなかった人がいた。

課題

- ①アンケートを全員の人に実施してもらうことができなかった
- ②ピーマンの蒸しパンを子供食堂に来てくれた人全員に食べてもらうことができなかった
- ③「高知の野菜をしゅっやうか?」というアンケートでは書き方が悪かったことなどが原因で具体例が分からず答えてくれない人がいた。

チームの課題

- ①事前準備が足りないことがあった
- ②アンケートを正確に行うことができず前と後で票数が違うなどの問題が出てきた

今後の目標

これまで地域に貢献するということを目標として様々な活動に取り組んできたが今回のようなプロジェクトを行ってきた。これからはそれぞれが自分たちのやりたいことをやり、違う道を行っていくがそれらの活動はどこかで誰かの役に立つものだと思う。これからそれぞれの活動を行っていく中で貢献するという大きな目標を元にこの2年間地域実践コースで学んできたことを将来に活かしていきたいと思う。

謝辞

私たちのプロジェクトを通して協力してくれた子ども食堂の方々、このプロジェクトをやるに当たってサポートをくださった先輩方、先生方ありがとうございました。今回このようなプロジェクトを行うことで子どもたちと触れ合いながら課題を解決することができ、私たち自身も成長でき貴重な体験をさせていただきました。このような経験をこれからそれぞれの活動で活かしていきたいです。



Report 報告書

G班

G班
交通×遊び×観光

02 成果

プロジェクトの成果

- ①観光ガイドを行ったことで観光客の方に魚梁瀬森林鉄道について詳しく知ってもらうことができた
- ②子どもから大人まで楽しんでもらえるイベントにすることができた
- ③オリジナル缶バッジを喜んでもらうことができた

(杉の家の人から)

- ①普段のイベントではできない子ども向けの出店ができた
- ②若者の元気を地区に届けることができた
- ③イベントの準備・片付けがスムーズにできた

チームとしての成果

- ①高知新聞にイベントについて取り上げられた
- ②商業生が作った缶バッジがスタッフから好評だった
- ③商業生が魚梁瀬について知ることができた



01 プロジェクト概要

2024年8月10日 イベント「真夏のビアガーデン」の実施

2024年8月11日 観光客に向けた魚梁瀬森林鉄道の観光ガイド



魚梁瀬の食堂の杉の家さんとコラボイベントを実施
テーマである「遊び」に着目し、射的ゲームや金魚すくいなど遊びの屋台を行った。
(背景) 初めはJR四国の汽車の中に子育て応援スペースを設置して汽車の利用客を増やすという企画を考えていたが、自分たちの本當にしたいことと違っていたためこの企画をやめ、自分たちの企画を通して地域に貢献したいという思いを元にこの企画を考えた。
(目的)・自分たちが魚梁瀬で活動を行うことによって、馬路村に興味を持ってもらいたい
・自分たちのイベントをきっかけに何回も馬路村を訪れる人を増やし、馬路村の良さを知ってもらい、馬路村の地域活性化に協力したい
・自分たちのイベントで多くの人に喜んでもらいたい
・魚梁瀬森林鉄道についてもっと多くの人に知ってもらいたい

(イベントのターゲット)

「金魚すくい・射的ゲーム」→地域の子どもたち
「森林鉄道の観光ガイド」→他の地域から来た観光客の方たち



03 課題

課題の振り返り

- ・イベントの際に言葉遣いを場面によって使い分けることができず、目上の方に対する言葉遣いが適切でなかった。
→相手にあった言葉遣いを心がける
- ・企画内容(企画書)の全体共有や確認が不足していたことからイベントの内容が混乱してしまった。
→企画書を提出前に必ず班や先生と確認しておく。
- ・イベント準備への取り掛かりが遅く企画書を相手の方に提出するのが遅くなってしまった。
→関わってくれる方へ迷惑をかけることになるため期限に余裕を持って提出する。

プロジェクトの課題

- ①言葉づかい・初めの挨拶(初対面であれば全員揃って)
- ②企画書を詳しく作れていなかった→先生との情報共有
- ③準備期間が短かった→企業に遅くても2ヶ月前には連絡
- ④イベントの準備不足で集活に物を多く借りてしまった
→持ち物リストを作成し、もしもに備えて準備する

チームの課題

- ①企画書の期限ぎりぎりに提出してしまった。
- ②役割分担ができなかった→一人に仕事を任せてしまった。
- ③イベントに必要なものの準備ができていなかった。
- ④集活との直接的な打ち合わせが少なかった。

私たちは地域実践コースとして2年次からさまざまな地域に関わる活動を行わせて頂きました。そのなかで地域に貢献することへのやりがいを感じる瞬間が沢山ありました。しかし地域と関わるなかで地域に貢献することへのやりがいだけでなく、地域貢献することの重要性にも気づくことができました。馬路村での活動では実際に地域を盛り上げる活動を行うこともできたほか、馬路村について観光客の方に知ってもらおうという大事な役割も果たすことができました。企業の方と繋がって地域のために活動することは思ったよりもとても大変で簡単なことでは無いということも学びました。このような経験は社会に出て同じで相手の方に迷惑にならない行動をとることや責任感を大切にしながら行動することは必要不可欠だと思います。進路はそれぞれ違いますが一人一人が地域のために、社会のために活躍出来る人材になりたいです。これまでの活動の経験を糧にこれからたくさん活躍しつづけていきたいです。

私たちが2年次の頃から私たちの班のために忙しい中協力してくださった方々、団体の方々、本当にお世話になりました。皆様のおかげで他にはない貴重な体験や経験をすることができました。これらの体験や経験は私たちにとってとても印象深く高校生での学びでかけがえないものになりました。東京での修学旅行で出会いJR四国さんの勉強会を開いてくださった大塚さん、馬路村での活動を快く引き受けてくださった集落活動センターのみなさん、杉の家のみなさん。私たちがここまで活動してこれたのは皆様の支えや協力があってこそだと思っています。本当にありがとうございました。



8) 授業担当者感想等

社会マネジメント科では、「社会貢献活動について学び、行動すること」をテーマに掲げています。本事業を通じて、生徒たちは「観光」や「観光ビジネス」の分野について学び、世界や日本、地元の高知、さらには他の地方や地域における課題に取り組み、その解決策を考えながら、実践的な力を養うことを目指してきました。昨年度、中心科目として学習した「観光ビジネス」では、次の2点が学びの成果として挙げられます。

- ① 地域や国の観光資源を最大限に活用し、地域経済にプラスの影響を与える力を身につけること。
- ② 高知の独自の文化や自然、歴史的な場所を活かして観光業を発展させることで、地域経済を刺激し、雇用増加や活性化を目指すこと。

このような取り組みは、地域経済の持続可能な発展に寄与し、地元の魅力を広く発信する役割を担うと感じています。

しかし、令和5年度の取り組みを振り返ると、生徒たちが「本当の高知」「高知の魅力」を十分に理解していない場面もありました。その背景には、幼少期から「高知は何もない」という先入観が無意識に刷り込まれていることが影響していると考えられます。この課題に対し、十分な検証の時間を確保できなかった点が反省点です。

令和6年度には、「課題研究」「商品開発と流通」といった科目で、前年度に企画立案した内容を「実行」に移すことに挑戦しました。実行の過程では、「実社会とのつながりをどう作るか」という課題に直面し、生徒たちは悪戦苦闘しました。その中で、生徒たちの想いや考えに寄り添い、学びの場を提供してくださった企業や関係機関の方々には心から感謝申し上げます。この経験を通じ、学校で身につけた知識やスキルは、学校外の活動を通じてさらに深まることを改めて実感しました。

これからの時代は、ロールモデルが存在しない中で、生徒自身が考え、決断し、行動

する力が求められます。「失敗から学ぶ」のではなく、「失敗しながら学ぶ」ことの重要性を生徒たちの活動から再認識させられました。また、昨年度に高知大学の石筒先生からご示唆いただいた「国の光を観る（観に行く）」という「観光」の語源は、観光分野に限らず、社会マネジメント科が目指す「地域貢献できる人材」を育成するうえで重要な視点だと感じています。これからも「高知の光」にさらに光を当て、持続可能な地域貢献を実現できる人材を育むべく、社会マネジメント科ならではの「観光」に取り組んでまいります。

※ 社会マネジメント科型「観光」

…高知の魅力を観光によって引き立て、それが地域に貢献することに繋がる。

昨年度の活動を振り返る中で、大きく2点の課題が浮かび上がりました。

- ① 高知県の観光振興策の立案において、ビジネスモデルの視点が不足していた生徒たちは観光振興策を考える際に、地域の課題解決に向けた具体的な施策を提案しましたが、ビジネスモデルの視点が十分に持てていませんでした。そのため、持続可能な振興策の構築には至らず、根本的な課題解決には結びつかなかったと考えています。
- ② 次年度は、生徒の「創造力」や「企画力」を高める学習活動を充実させるとともに、1年次から学んできた他教科や商業科目との結びつきを強化し、より多角的な視点で振興策を分析できる仕組みを取り入れたいと考えています。これにより、生徒のシビックプライドを育み、観光が地域にもたらす効果や地域資源の魅力（光）を発信し、地域観光を開発していく力を身に付けることを目指します。

こうした課題の解決に向け、今年度は企業・自治体・大学と連携しながら、実社会の課題に取り組む学習プログラムを展開しました。地域の方々と協働し、現場での学びを重視することで、教室内では得られない実践的な思考力や協働力を養うことを目的としました。授業を通じて最も大きな成果として感じたのは、生徒たちの自主性の向上です。活動当初は「何をすればよいのか分からない」と戸惑っていた生徒も、プロジェクトを進める中で主体的に行動し、自ら課題を見つけ、解決策を模索する姿勢が育まれました。特に、県内の企業や教育機関へ企画を提案するために、市場調査やフィールドワークを計画し、授業外の時間も活用しながら企画立案に取り組んでいたことは、大きな成長の証と感じています。また、5人×7チームでのプロジェクト活動においては、それぞれのチームが関係機関と意見交換を重ねながら企画を進めたことで、相手の立場を考えながら交渉する力が養われました。その結果、全7チームが外部機関と連携し、自分たちが見つけた「光」を発信するためのプロジェクトを実行することができました。

一方で、指導の過程でいくつかの課題も明らかになりました。

- ① PBL（課題解決型学習）の特性上、生徒の成長度合いに差が生じた

PBLの特性として、学びの成果が一律ではなく、生徒ごとの成長に差が生じることがありました。そのため、学びのプロセスをどのように評価し、適切にフィードバックするかが課題となりました。今後は、成果物の評価だけでなく、プロジェクトに取り組む姿勢や成長のプロセスを可視化し、より適切な評価とフィードバックができる仕組みを検討していきます。

② プロジェクトの進行管理とモチベーションの維持

2年間にわたる活動では、生徒のモチベーションの維持が重要な課題となりました。

これに対し、定期的な振り返りの機会を設け、外部指導員の協力を得ながら学習の意義を再確認する仕組みを取り入れました。特に、じゃらんリサーチセンター主席研究員の森戸様や、高知県内の地域おこし協力隊ネットワーク「とさのね」から4名の外部講師を招き、プロジェクトへのフィードバックを受ける機会を設けたことは、有意義な取り組みとなりました。しかし、フィードバックの機会を十分に確保することが難しく、今後はより効果的な仕組みづくりが必要であると感じています。

この2年間を振り返ると、生徒たちの成長を実感することができました。特に、地域と関わりながら学ぶことで「地域の課題を自分ごととして捉える力」が養われたことは、大きな成果の一つです。

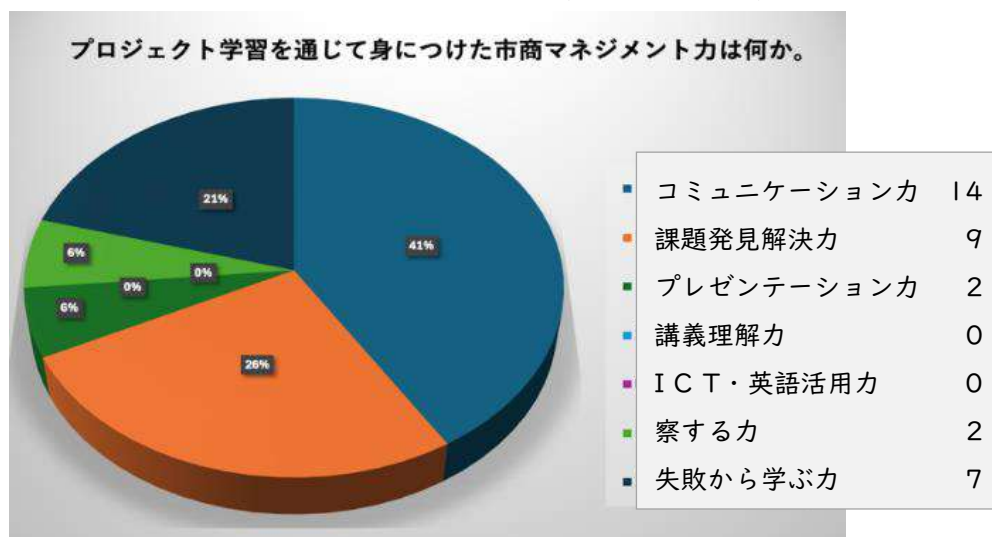
また、正解のない問いに対しては、単に答えを導き出すのではなく、人と人とのつながりの中で仲間と共に自分なりの正解を創造していくことの大切さを実感しました。生徒たちがプロジェクトを通じて、多様な価値観に触れながら試行錯誤し、自らの考えを深めていく姿勢を育めたことは、今後の学びにも大きくつながると考えています。

今後、社会マネジメント科地域実践コースを継続・発展させるためにも、活動を振り返り、後輩へとつないでいくことが必要だと感じています。私自身、この2年間、生徒と共に学びながら「答えのない問い」を投げかけ続けてきました。時には、正解を求めすぎて生徒の主体性を阻害してしまったのではないかと考える場面もありました。しかし、これからも生徒たちが自ら考え、地域課題に向き合いながら学び続ける環境を整えていくことが、指導者としての役割であると再認識しています。今後も、企業・自治体・大学との連携を深め、より実践的な学びの機会を提供することで、生徒たちが地域の未来を担う人材として成長していけるよう、取り組みを進めていきます。

9) 資料（生徒の振り返り）

【1】あなたがプロジェクト学習を通じて身に付けた市商マネジメント力は何か。

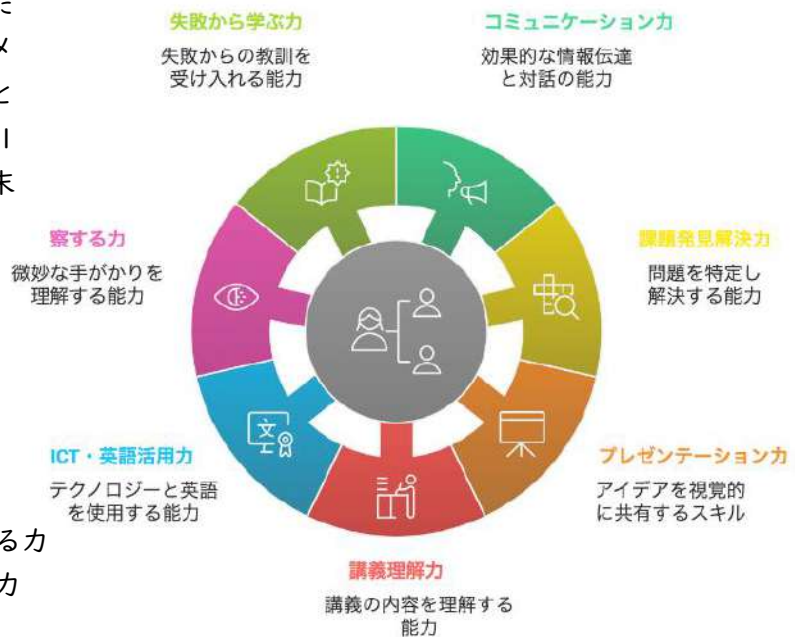
（令和6年11月29日実施 2学期期末考査 答案より 抜粋）



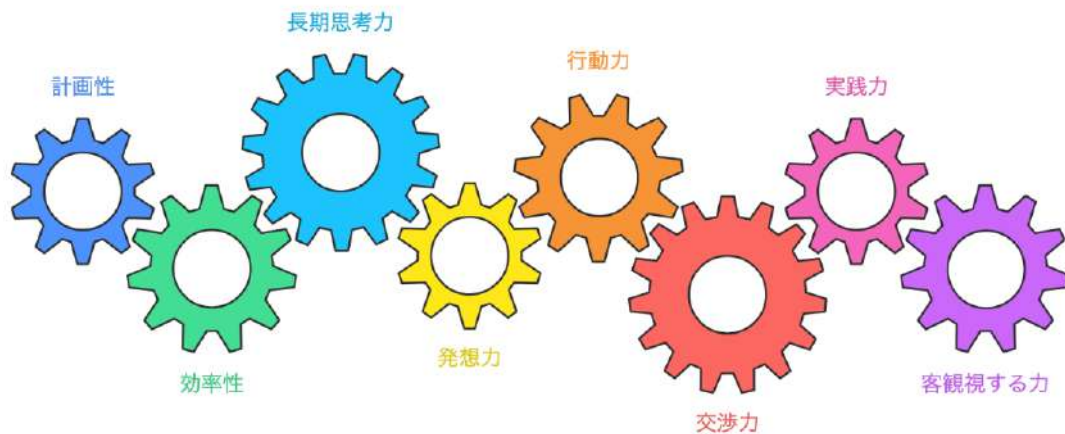
【2】あなたがプロジェクト学習を通じて身に付けた力の中で、市商マネジメント力以外に何があると考えるか。（令和6年 11月 29 日実施 2 学期期末 考査 答案より 抜粋）

- ・ 計画性
- ・ 長期思考力
- ・ 行動力
- ・ 聴く力
- ・ 交渉力
- ・ 客観視する力
- ・ こたわる力
- ・ 効率性
- ・ 発想力
- ・ 頼る力
- ・ 想像力
- ・ 実践力
- ・ 周りを見る力
- ・ 企画調節力

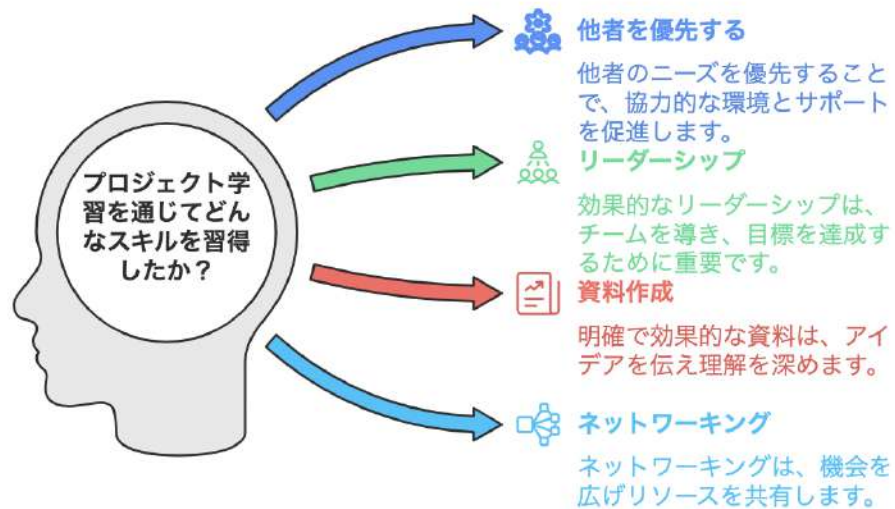
プロジェクト学習を通じてのスキル開発



プロジェクト学習を通じてスキルを構築する



- ・ 一緒に活動してくれる方のことを優先に考える力
- ・ リーダーシップ力
- ・ 資料を作成する力
- ・ いろいろな人と繋がる力
- ・ 必要な時にすぐ行動する力
- ・ これからのことを考えて行動する力
- ・ 意見を伝える力
- ・ 考えを深め、発信していく力
- ・ タイムマネジメント力
- ・ 自分でアイデアを出す力
- ・ 課題を分析し、今、できることを考える力
- ・ 他者と協力する力
- ・ 外の人と繋がろうとする力
- ・ 最後までやり遂げる力
- ・ 自分から行動する力
- ・ ルールを制定する力
- ・ 臨機応変に対応する力



【3】チームでプロジェクトに取り組むにあたり、あなたのチームの成長や成果と課題を説明しなさい。（令和6年11月29日実施 2学期期末考査 答案より 抜粋）

【成長・成果】

- プロジェクトが一気に進んで、やらないといけないことも増えたので、みんなの積極性が増して、自分の役割が終わると自ら次にやることを探してやるようになった。また、自分だけでは考えが思いつかない時などはすぐに仲間が聞いてくれ、聞かれた側も以前よりも自分の考えを話してくれるようになった。
- プロジェクトを進行するスピードが上がった。課題を解決する方法をはやく導けるようになった。小さな子どもたちに、海の貝を使った工作の楽しさを伝えることができた。学校外の方々と繋がり、プロジェクトの計画を立てることができた。
- 最初は目的が曖昧で、なんとなく子ども食堂でイベントをやってみようという感じだったが、実際に子ども食堂に行ったり、子ども食堂で働いている方々のお話を伺う中で、班員が考える目的や「こうなってほしい！」という願いがひとつになってきた。ひとりに任せきりになることなく、全員で活動に取り組むことができた。
- 1回目のプロジェクトを振り返り、内容をブラッシュアップしたおかげで、反省点や気づきを活かしながら2回目のプロジェクトを行うことができた。
- はじめは、同じことを全員で取り組んだりして、役割分担がうまくいっていないこともあったが、企画書、アンケート用紙、スライドなどについて役割分担をし、班員が自分の役割を果たしながら、取り組むことができた。
- イベント実施後、反省点も踏まえて自分たちの足りなかった部分に気づくことができた。また、地域のみなさんから「ありがとう」や「またイベントやろうね」という言葉をかけていただいた。これらの言葉がとても嬉しく、地域に貢献するやりがいを感じた。
- 1人ひとりがはっきりと意見を持ってプロジェクト進行に関わっていること。期間が長いこともあり、多く深いコミュニケーションが取れたことで、1人ひとりが話しやすい環境ができた。プロジェクトは1人の力だけでは成功させられるものではないため、全員が関わるプロジェクトにできたことは、1人ひとりの成長であると感じる。
- プロジェクトに関わっていただいている関係者の皆さまに対しても意見を言えるようになった。また、自分たち側の視点だけでなく、いろいろな立場の方々の視点を考えら

れるようになったことで、視野が広がった。

- 1人に仕事量が偏らないよう、班全員で平等に仕事を分担し取り組んだ。班内でそれぞれの仕事の締め切りを設定し、効率よく活動ができている。関係者の方からは「仕事が速くてありがたい」と褒めていただく機会が増えてきた。余裕を持って活動に取り組んでいる。

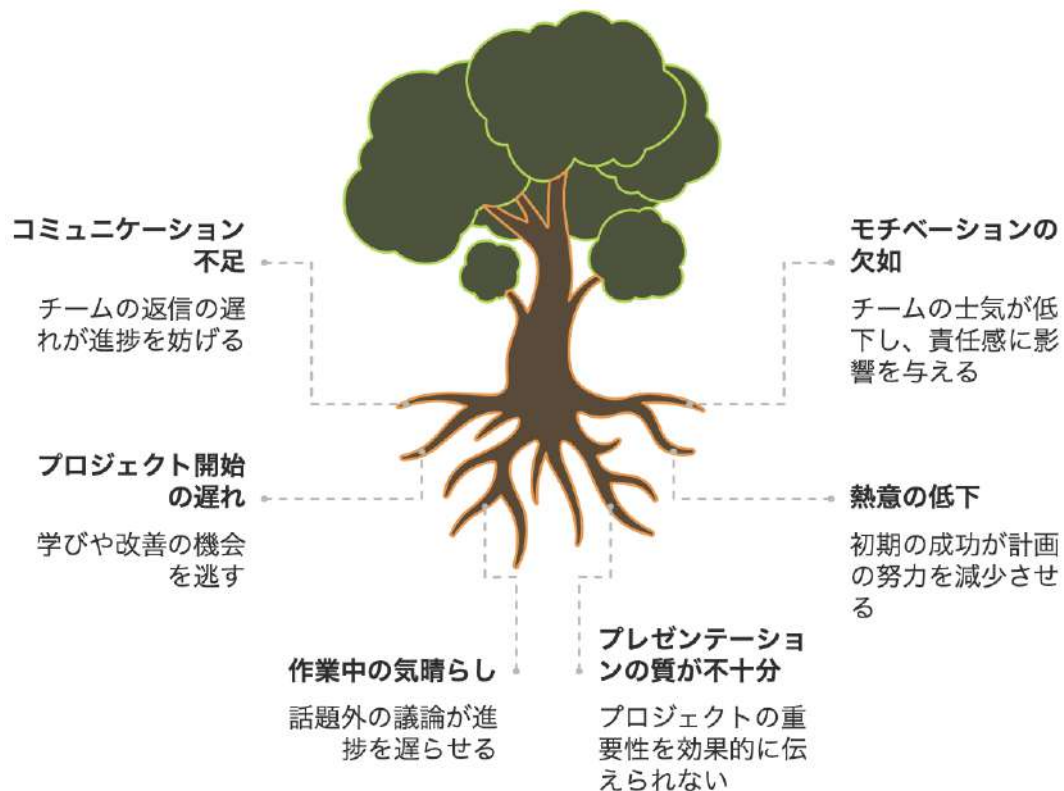


【課題】

- 計画を立ててやっているが、なかなか計画どおりに進まない、期日を守れない人もいること。また、授業時間以外での話し合いを計画したときには、全員の返信がなく、授業以外での時間での進展が遅いこと。
- チームがマイナスなモードに入ると、抜け出すのがなかなか難しくなる。全員があてはまるわけではないが、プロジェクトに対するやる気や責任感が欠けてしまうようなことがあること。
- プロジェクトに取り掛かるのが遅くなってしまった。そのため、プロジェクトを実行に移して感じた改善点や気づきなどを次のプロジェクトの実行に活かせない。
- 1回目のプロジェクトをやり終えた達成感から、2回目のプロジェクトを実施するにあたっての計画や熱量が落ちていること。
- 2回目の企画がなかなか決まらず、企画書を送付できていない。企画内容についても、この企画をする意味や効果について考えることが不十分だった。
- 誰がどの部分を担当するのか、早く決まって取り掛かるスピードは速くなったが、一定の時間集中したらすぐに集中力が途切れてしまい、次のやらなければならないことへの切り替えができない。

- 長い活動期間を経て、仲が深まり、話しやすい環境ができた一方で、活動とは関係ない私語が多くなっている。このことが原因で、なかなか話し合いが進まなかったりして、他のチームより早く始めた企画であったが、逆に遅れをとってしまっているように感じる。
- 一つひとつの質を上げていかないといけないと感じる。例えば、企画書やプレゼンの資料である。高知の林業における人手不足の問題があまり知られていないのは、林業自体のことが知られていないのではないかと仮説を立て、まずは子どもたちに高知の林業について知ってもらいたくて子ども食堂での活動を企画した。現在、作成している資料では、子どもたちに高知の林業の現状はうまく伝わらないと感じるので、ターゲットを意識した資料に質を上げる必要がある。
- 文化祭の際に実施した活動とはターゲットが違うために、私たちの思いを伝えるための工夫が必要である。
- お弁当お惣菜大賞にエントリーして入賞できなかった経験から見てきた課題がたくさんあった。開発会議では味のことを中心に考えていたけれど、1次審査は書類審査であったため、商品の魅力や素材の魅力、開発に向けた自分たちの想いなどを相手に上手く伝える力が足りなかった。
- 余裕がある一方で、そのことが原因で話し合いが脱線してしまったり、作業を後回しにしてしまったりする場面があるのが課題。そのときにやらなければならないことをリスト化し、確認していくことが必要だと感じる。

プロジェクト管理の非効率性



(3) 情報マネジメント科3年生・情報マネジメント科 ICT活用類型2年生

1) 活動主体

高知商業高等学校 情報マネジメント科 3年生 33名

// 2年生 21名 (ICT活用類型)

2) 実施授業

3年生：課題研究・総合実践

2年生：ネットワーク活用

3) 授業の目的・ねらい

【課題発見解決力・ICT活用力・自ら考え行動できる力】の育成

3年生：科での学びを活かし、地元へ貢献できること

(デジタル技術を活用して高知へ貢献活動)

2年生：プロが追及するデザイン・販売活動を学ぶ

(他者が興味を示すデザイン・情報発信の学習)

4) 外部講師 (敬称略)

講師氏名(所属)	主な講義内容
山崎 美和 (CHALAZA BRANDING)	・ ブランディングデザインについて →ブランドのコンセプトやメッセージを 視覚的な情報として伝える方法
オウイエ・聖羅 (株式会社 ソレクティブ コンテンツライター)	・ SNS (Instagram) について →写真撮影・投稿頻度・時間帯・コメント などの効果的な方法
吉川 淳二 橋爪 淑子 (株式会社 KICCA)	・ ビーチサンダルデザイン ・ 接客マナー・販売について
浅井 英男 (フリーデザイナー)	・ デザイン全般について

5) 教科横断的な授業

【3年生】

教科名	授業内容
英語科	パンフレット掲載文(英文)の翻訳指導

【2年生】

教科名	授業内容
英語科	販売時における接客対応(会話)指導

6) 実施実績

令和6年【3年生】

月日(曜日)	授業・会議	内容
4月12日(金)	授業	課題研究とは
4月16日(火)	授業	問題と課題の違いについて
4月18日(木)	授業	課題の設定について
4月19日(金)	授業	個人で課題の設定
4月23日(火)	授業	個人プレゼン
4月25日(木)	授業	個人プレゼン
4月26日(金)	授業	プレゼン振り返り
4月30日(火)	授業	テーマの設定
5月1日(水)	授業	問題点の洗い出し
5月9日(木)	授業	調べ学習(インターネット・学校図書館)
5月14日(火)	校外学習	文献等調査 ・場所:オーテピア図書館
5月16日(木)	授業	調査まとめ
5月23日(木)	授業	調査まとめ・発表準備
5月24日(金)	授業	発表準備
5月28日(火)	発表	グループ別成果報告会
6月4日(火)	授業	発表振り返り
6月6日(木)	授業	小グループ結成(4グループ)
6月7日(金)	授業	グループ目標・個人目標の確認
6月11日(火)	授業	グループ別予定表作成
6月13日(木)	授業 校外学習	グループごとの活動 フィールドワーク ・場所:木曜市
6月14日(金)	授業	グループごとの活動
6月18日(火)	授業 校外学習	グループごとの活動 フィールドワーク ・場所:土佐市商店街
6月20日(木)	授業	グループごとの活動
6月21日(金)	授業 会議	進捗状況発表準備 【商店街イベント企画提案】 ・場所:土佐市役所 ・参加者:土佐市商工会 土佐市役所産業振興課 ・内容:土佐市商店街イベント企画について
6月25日(火)	授業	調査まとめ・解決策発表準備
6月27日(木)	発表	グループ別成果報告会

7月4日(木)	授業	グループごとの活動
7月5日(金)	授業	グループごとの活動
7月9日(火)	授業	グループごとの活動
7月11日(木)	授業	デザイン全般についての講義
7月12日(金)	授業	グループごとの活動
7月18日(木)	授業	夏休みの行動計画
8月4日(日)	校外学習	【高知県産業PRイベント】 ・場所：イオンモール高知 ・内容：小中学生 ICT 体験講座開催
9月3日(火)	発表	グループ別夏休み成果報告会
9月6日(金)	授業	グループごとの活動
9月10日(火)	授業	グループごとの活動
9月11日(水)	校外学習	【商店街イベント企画提案】 ・場所：土佐市役所
9月12日(木)	授業	グループごとの活動
9月13日(金)	授業	グループごとの活動
9月17日(火)	授業	グループごとの活動
9月20日(金)	会議 オンライン	【日曜市プロジェクト企画提案】 ・きみのたねこうぼう
9月24日(火)	校外学習	【ICT出張講座】 ・場所：高知市立旭東小学校
9月26日(木)	校外学習	【ICT出張講座】 ・場所：高知市立旭東小学校
9月27日(金)	授業	中学生体験入学時の授業計画・準備
10月1日(火)	授業	中学生体験入学時の授業計画・準備
10月6日(日)	校外学習	【日曜市プロジェクト】 ・場所：日曜市フィールドワーク
10月8日(火)	授業	中学生体験入学時の授業計画・準備
10月17日(木)	授業	中学生体験入学時の授業計画・準備
10月18日(金)	授業 校外学習	グループ別成果報告会 【商店街イベント企画提案】 ・場所：土佐市役所
10月24日(木)	授業	中学生体験入学時の授業リハーサル
10月25日(金)	学校行事	中学生対象体験授業実施（体験入学）
10月29日(火)	校外学習	【商店街イベント企画試写】 ・場所：土佐市ドラゴン広場 【ICT出張講座】 ・場所：高知市立西部中学校
10月31日(木)	授業	グループごとの活動

11月1日(金)	授業	グループごとの活動
11月5日(火)	授業	グループごとの活動
11月7日(木)	授業 校外学習	【日曜市プロジェクト】 ・場所：木曜市フィールドワーク
11月8日(金)	授業	グループごとの活動
11月12日(火)	授業 校外学習	【日曜市プロジェクト企画提案】 ・場所：高知市役所
11月14日(木)	授業	グループごとの活動
11月15日(金)	授業	グループごとの活動
11月17日(日)	校外学習	【日曜市プロジェクト】 ・場所：日曜市フィールドワーク
11月19日(火)	校外学習	【商店街イベント企画試写】 ・場所：土佐市役所
12月4日(水)	校外学習	【商店街イベント企画試写②】 ・場所：土佐市役所
12月8日(日)	校外学習	【商店街イベント企画本番】 ・場所：土佐市役所
12月13日(金)	校外学習	【ICT出張講座】 ・場所：高知市立泉野小学校
12月17日(火)	校外学習	【ICT出張講座】 ・場所：土佐市立蓮池小学校

令和7年【3年生】

月日(曜日)	授業・会議	内容
1月9日(木)	授業	グループごとの活動 グループまとめプレゼン準備①
1月10日(金)	授業	グループごとの活動 グループまとめプレゼン準備②
1月14日(火)	授業	グループごとの活動 グループまとめプレゼン準備③
1月16日(木)	授業	グループごとの活動 グループまとめプレゼン準備④
1月17日(金)	授業	グループまとめプレゼン①
1月21日(火)	授業	グループまとめプレゼン②
2月9日(日)	校外学習	【日曜市プロジェクト】 小学生対象日曜市体験ツアー
2月13日(木)	発表会	課題研究発表会

令和6年【2年生】

月日（曜日）	授業・会議	内容
4月15日（月）	授業	ビーチサンダルデザイン公募開始
4月16日（火）	授業	ビーチサンダルデザイン テーマ・レイアウト開始
4月22日（月）	授業	ビーチサンダルデザイン制作（PhotoShop 活用）
5月14日（火）	授業	先方へ各生徒の制作物プレゼンテーション実施 ビーチサンダルデザイン講評および結果発表 ビーチサンダルデザインブラッシュアップ開始
5月17日（金）	授業 オンライン	ブランディングデザインについての講座
6月3日（月）	授業 オンライン	SNS（Instagram）を活用した情報発信のための SNS（Instagram）活用講座
6月4日（火）	授業	ノベルティのテーマ出し
6月10日（月）	授業	ノベルティ制作開始 ビーチサンダルデザイン加工開始
7月4日（木）	授業 校外学習	接客マナー講習・販売当日のOJT 高知蔦屋書店にて販売活動準備 接客マナー研修
7月6日（土）	校外学習	高知蔦屋書店にて販売活動実施（1日目）
7月7日（日）	校外学習	高知蔦屋書店にて販売活動実施（2日目）
7月8日（月）	授業	生徒振り返り

7) 生徒の感想等

【3年生】

《ICT出張講座》

- ・ 物事を簡単に伝えようとして「必要な情報」が欠如してしまうことがあった。書類や成果報告で伝わるように「結果」から述べて重要な部分を「誇張」したり「観点別」にまとめるようにしたりする工夫をした。児童に教える際も実際に見せながら体験してもらったり、出来るだけ「分かりやすい単語」で話したりした。また、普通の会話も取り入れることで警戒心を解いてもらったり「興味」を示してもらえようように質問したりしながら「体験活動」を行ってもらった。それにより児童たちに「デジタル技術」への興味関心を深めてもらうという目標を達成することが出来た。
- ・ 周り何何を求めているのか、どのように動いたら効率よく進むのかなど、その都度考えながら行動することができるようになった。
- ・ 多くの失敗があったが、その反省点から改善を繰り返してよりスキルを磨いていくことの大切さを学ぶことができた。

《商店街イベント企画》

- ・ 様々な困難にぶつかりその度に悩み、何度もやめてしまいたいと思っていた。しかし、先生たちの助言や班の中でこれからはどうしていくのか話し合い全員で協力することで、困難を乗り越えることが出来た。正直良いことばかりではなかったけれど、一つのプロジェクトとしてやり通して初めて「やりがい」を感じることができ、この活動が出来て本当に良かったと思う。情報共有の大切さや前々から計画を立ててそれに沿い実行することの大切さ、自分たちの中で意見を決めておくことの大切さなど、様々なことに身をもって学べた課題研究だった。
- ・ 様々なソフトの技術を習得することもできたし、察する力や積極的に動く力、臨機応変に対応する力が身についたので、卒業後もこの授業で学んだことを活かしたいと思います。
- ・ 自分が行う行動に対して何が起きるのか、それに伴ってたくさんの視点からの対処法をしっかりと考えることでミスが減らすこともできるし、安心して作業に取り掛かることができることを体感できた。私は共同作業が苦手だったけど、今回グループで動くことで共同作業の面白さも感じる事ができたし、グループで活動を進める上で大切なことを学ぶことができた。

《日曜市プロジェクト》

- ・ 「自分、これにしようか？」や「自分これやるよ！」という声掛けを行い、班内で意見を出し合う時、積極的に発言することが出来た。
- ・ チームの仲が良くて明るいことが特徴だったので、みんなに何かを指示したりやってほしいと言ったりすることが困難に感じた。その結果、パワーポイントや文章作り、アイデア出しを一人でやってしまう状態が多く、自分の気持ちをうまくコントロールできない時もありました。しかし、今はみんなに対してちゃんとやってほしいとも言えるようになったし、言ったからといって「嫌われる」わけでもないことを実感しました。
- ・ 課題研究の活動を通して、状況に合わせて自己で考えて行動する力、アイデアを創造する力、先を見通す力、さまざまな視点に立って多角的に物事を考える力を身につけることができた。

【2年生】

- ・ お客様が選ばれるデザインは自分が作りたいものではないということ。テーマに沿ってイメージを膨らませる大切さを学んだ。
- ・ 情報発信をするにあたって「Instagram」を活用した。オンライン講座で学んだことを生かしてやれたと思う。

8) 授業担当者感想等

【3年生】

活動の中で主体性を生かしたことにより、現状何をしているのかが把握しきれなかった。そのことにより先方へ迷惑をかけることがあった。その点が反省点であ

る。毎時間各グループのリーダーから連絡・報告を行うよう指示していたが、教員と生徒とのミーティングの回数が少なかったことにより上記のようなことが起こった。今年度の課題を改善点とし、次年度への活動につなげていきたい。

【2年生】

昨年の反省点を踏まえスケジュールを前倒しした形でスタートした。先方との打ち合わせを前年度より多く行い、生徒たちへの発信機会をより多くしたことによって「デザイン」に関するブラッシュアップの時間を設けることが出来た。ただ、機材（レーザ加工機）をレンタルしなければならない状況は昨年、一昨年も同様であり、期日が限られた中で生徒の創造性を生かしたノベルティ等に時間をかけることが出来ないのは残念である。

9) 生徒の変容【3年生】

昨年からの変更点として「自ら伸ばしたい力」を各生徒への投げかけとして「テーマ」を持たせ活動を指示した。各グループでのプロジェクトにあたり、昨年同様本校が掲げているスキル2点「課題発見解決力」・「ICT 活用力」と情報マネジメント科独自で設定した「自ら考え行動する力」を活動前、活動後に分けて「個人レポート（4点の力）」として実施した。生徒の振り返りにもあるように「生徒自身が主体」となり、学校外にて活動を実施することは、日頃の学習活動とは違い「受動的から能動的」な姿へ変化していった。ただし、自らの探究心をより高めながらも「他者の意見」に耳を傾け、得た情報を「共有」する点、仲間とともに課題を解決する「協調性」を養うことは若干乏しいものとなった。学校外との連携（企業・官公庁・学校）において生徒が足を運び企画の提案、再構築（ブラッシュアップ）などコミュニケーション力や様々な力のレベルが一段上がったのが見てとれた。

【2年生】

ビーチサンダルへレーザ加工するデザインを各自が作成した。PhotoShop を活用し、自らが発案するデザインを創作。あくまでも「自己主観のデザイン」である。その制作物に対し、株式会社 KICCA 様へ各個人がプレゼンテーションを行った。一定の評価をいただいたが、この点はこの点という感じでリクエストを受けた。前回までとは違い「求められていること」に対してブラッシュアップを行う。自らの考えが1度で認められないということを生徒自身が肌で学習した。そのことを踏まえ、分野別の専門家（講師）からオンラインではあるが、「デザインに関する必要な知識」やイベントを行う「情報の発信の仕方」「接客時のマナー」などを習得した。販売前日は、日頃大人しい生徒が広報担当者としてテレビ局からの取材対応、店頭に来てくださったお客様への対応など「コミュニケーション力」が一段と上がったのが見てとれた。

10) 授業風景（画像）

・ ICT 出張講座



・ 商店街イベント企画



・日曜市プロジェクト



・デザインビーチサンダル販売実習



(4) スポーツマネジメント科Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ年生

1) 活動主体

高知商業高等学校スポーツマネジメント科 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ年生 104名

2) 実施授業

スポーツマネジメントⅠ・Ⅱ・Ⅲ（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ年合同）

3) 授業の目的・ねらい

- ・ スポーツを通じて、「健康」「幸福」な状態を創造する人材の育成。
- ・ アスリートとしての責任（社会貢献）を認知し、地域の人と共にアスリートとしての活動を通して「健康」「幸福」になれるよう関わり方を学び、実践していく力を身に付けることをねらいとする。

4) 外部講師・外部協力機関（敬称略）

講師氏名(所属)	主な講義内容
芹沢 翼 (一般社団法人 アスルクラロ スポーツクラブ)	園児に対するスポーツ指導実践。高校Ⅰ年生を園児に見立てスポーツ指導の実践を行い、それに対する助言をいただいた。
社会福祉法人高知塚ノ原会 塚ノ原保育園	スポーツ交流への参加協力

5) 教科横断的な授業

科目名	授業内容
課題研究	園児に向けた運動プログラムの計画

6) 実施計画

第Ⅰ回 交流	5/22	グループ編成（3グループ：リーダー選出，役割分担）
	5/23	グループ会議①：ゲーム決め（手順，ルール等）
	6/6	グループ会議②：打合せ会を踏まえた注意事項作成
	6/10	交流活動実施（高知商業高校 第Ⅰ体育館）
	6/13	交流活動振り返り（個人活動：報告書作成）
	6/14	交流活動振り返り（グループ討議）
	6/17	グループごとに発表
第Ⅱ回 交流	9/9	第Ⅱ回交流に向けての検討会
	9/11	グループ編成・会議①スポ科ゲーム（内容検討会）
	9/12	グループ会議②スポ科ゲーム（役割分担，諸注意検討）
	10/23	グループ会議③打合せ会後：再検討会・ルール確認
	10/28	交流活動実施（高知商業高校 第Ⅰ・Ⅱ体育館）
	10/30	交流活動振り返り（個人活動）
	10/31	交流活動振り返り（グループ討議）
	11/14	交流活動報告書作成

第3回 交流	11/25	グループ会議①スポ科ゲーム（内容検討会）
	11/27	グループ会議②スポ科ゲーム（役割分担，諸注意検討）
	1/9	グループ会議③打合せ会后：再検討会・ルール確認
	1/14	交流活動実施（高知商業高校 第1・2体育館）
	1/16	交流活動振り返り（グループ活動）

7) 実施実績
令和6年

月日(曜日)	授業・会議	内容
6月4日(火)	会議	【塚ノ原保育園との打合せ①】（園に訪問） ・活動の趣旨や計画の説明 ・注意事項や配慮の確認など
6月6日(木)	会議	【塚ノ原保育園との打合せ】 ・園の担当者が来校し，園から体育館入口までの動線，トイレなど施設の視察を行った。
6月6日(木)	会議	【6月来校に向けて授業内容打合せ】 ・スポーツ指導実践を実際にして，指導後にみんなでリレーションを行うことを決めた。
6月10日(月)	授業・活動	【園児とのスポーツ交流に向けて，プレススポーツ指導演習】 ・場 所：高知商業高等学校 第1体育館 ・参加者：スポーツマネジメント科 1年生35名・2年生34名・ 3年生34名 ・内 容：1年生に対して，3年生がスポーツ指導（じゃんけん列車・だるまさんが〇〇・凍りオニ）を行った。 その指導に対して，芹沢氏から助言をいただいた。
6月13日(木)	活動	【塚ノ原保育園児とのスポーツ交流①】 ・場 所：高知商業高等学校 第1・2体育館 ・参加者：塚ノ原保育園 年長児30名・ 引率2名 スポーツマネジメント科3年生34名 ・内 容：じゃんけん列車・ だるまさんが〇〇・凍りオニ

8月27日（火）	会議	【総合型地域スポーツクラブについて】 ・総合型地域スポーツクラブとして高知商業がハブになることでどのようなことが地域に貢献できるのか、事例など踏まえながらミーティングを行った。
10月23日（水）	会議	【塚ノ原保育園との打合せ②】（園に訪問） ・2回目の活動計画の説明 ・注意事項や配慮の確認など
10月28日（月）	活動	【塚ノ原保育園児とのスポーツ交流②】 ・場 所：高知商業高等学校 第1・2体育館 ・参加者：塚ノ原保育園 年長児 30名 引率2名 スポーツマネジメント科3年生 34名 ・内 容：手打ち野球・的あてキックベース・ころがしドッジボール ・園児にアンケート調査
11月15日（金）	会議	【12月来校に向けて授業内容打合せ】 ・2回の交流の振り返りと最後の交流に向けて、指導内容の質を高めるために身体的・心理的アプローチなど講義と実践を行うことに決まった。
12月16日（月）	授業・活動	【講義】アスリートとしての役割・責任 地域貢献について（園児とのスポーツ交流・スポーツ指導） ・「良い交流とは？」活動後に、どうなったら成功といえるのだろうか。 ・園児に「楽しい」と思ってもらえたら成功。その質を高めるためには、“準備が最重要”である。 ・マズローの欲求段階の学び 【グループワーク】 ワーク①心理的安全性をだすために、何をするのか。 ワーク②園児たちとの繋がり感をだすために、何をするのか。 ワーク③どんなところを評価する（褒める）のか。を考える。 ・子どもたちがうれしい事

「コミュニケーション力」を選択した生徒の理由

- ・ 園児にルールを説明するときに、わかりやすく伝えるために園児でもわかるぐらいの言葉で伝える方法を考えた。一回目の時と比べると、今回はかなりわかりやすく説明することができた。
- ・ 2 回目の交流の際に自分たちの班でしたくないという子がいて、その子に対してうまくコミュニケーションがとれて最後まで一緒に交流できた。
- ・ 園児とたくさん話したため身についたと思いました。
- ・ 小さい子は苦手だったけれどコミュニケーションをとって行くうちに段々と楽しくなり、小さい子も苦手じゃなくなりました。
- ・ 園児と関わる時に質問したり話が盛り上がったり、コミュニケーションをとることで楽しさが倍になったなと気づくことができました。
- ・ 臨機応変に対応し、恥ずかしくても園児としっかり喋ることでコミュニケーション力が向上したと思ったから。
- ・ 保育園児と仲良くなるために、こっちから話しかけたりしたから。
- ・ 自ら園児にコミュニケーションを取ることができ、楽しませることができたから。
- ・ 歳が離れてて話しにくい時があったけど向こうからも声をかけてもらったりしていろんな場面で伝えたり伝えてもらったりする場面があったから。
- ・ 園児が緊張しないように、自分から声をかけたり、ハイタッチをしたりして積極的にコミュニケーションをとるようにした。人見知りな子でも話しかけたら段々喋ってくれるようになった。
- ・ 一番最初に園児たちと遊んだ時は、上手くコミュニケーション取れずに泣かれました。あんまりガツガツいきすぎてもダメだと分かり、そこからは同じ目線に立ってゆっくりコミュニケーションを取るように意識しました。
- ・ 普段友達と話す感じで園児に話しかけると怖がられてしまうので目線を合わせて口調を優しくして話しました。
- ・ 話さない子も積極的に話しかけて、みんなが楽しめるような空間を作ることができた。
- ・ 園児が話しやすい話題を自分からふって沈黙がないようにした。
- ・ 幼児との関わり方が知れた。
- ・ 園児たちと仲良くできるようにコミュニケーションをとれるようにしてきた。
- ・ 園児たちと遊びをする前のペア決めなどをする時に積極的に関わっていたり、僕たちのしていたゲームでは逃げる側から当てる側に変わるなどゲームの中で立場が変わる場面も多かったため、その際に「私投げたい!」「僕逃げる!」などといった会話以外でのコミュニケーションが取れていたと思うので良かった。
- ・ 終わった時に「またやりたい」「もう終わるの?」などと楽しかったと言ってくれた。たくさんの園児と話することができ、コミュニケーションをとることができた。
- ・ 困っている園児にルールとかトイレの場所などを教えてあげた。園児の立場になって考えることが大事だと思った。
- ・ 小さい子どもとの対応の仕方、低い姿勢でしゃべった方が、子どもたちはしゃべってくれた。
- ・ 園児と関わる中で色々な事を話せた。

「課題発見・解決力」を選択した生徒の理由

- ・ 何回もやっていくうちに園児がもっと動きたそうにしていたのに気付いて課題に感じたし時間もいっぱい使えていないと気付いたら次からみんなで話し合っ改善をしていけた。
- ・ 園児が楽しくなるように周りを見て動いた。
- ・ 野球をやったときに難しすぎてやりにくかったり、偏りがあったため、ケイドロにして平等に遊べるように課題を発見して次に繋げることができた。
- ・ 第一回目は氷穴で範囲を決めていたがそれを無視する子達がたくさんいた。第二回からはもっとシンプルで園児でもサッと理解できるゲームに変えたこと。
- ・ だるまさんが転んだ、で距離が短くてすぐ捕まったので距離を伸ばす。
- ・ 1回目からやった時より、3回目では園児がやって楽しいって思ってくれたり、楽しいだけじゃなくて園児から出る「まだやりよりたかった」って言われた時は嬉しかったし2回目の時はそんな言葉があんまり聞けなかったけど3回目聞けてそれは自分たちで考えてやったらスポーツがよかったと思うし、2回目のことから反省を生かしてできたと思う。

「察する力」を選択した生徒の理由

- ・ 園児の表情や行動を見て何をサポートしたらよいかや、予測したりすることをした。
- ・ すぐ動いてしまったりボールなど近くにあって集中できなくなるので幼児の死角の後ろにボールを並べ直した。
- ・ 園児が疲れてきたなって思ったら休んだり、トイレじゃないかなって気にかけてたりできたから。
- ・ ルールをわかってない子や困った子がいたら聞かれる前に気づいて対応することができた。

「失敗から学ぶ力」を選択した生徒の理由

- ・ ルール設定の時に前回の反省の動作をもっと増やすということを次に活かすことができ、止まる、走るの他に投げる動作も入れられたこと。
- ・ 子供に立ったまま話したら聞いてくれなかったから、座って話したら聞いてくれた目線を合わせる大切さ、を失敗から学んだ。
- ・ 3回の取り組みの中で、回数を重ねるごとにメニューが改善されていったり、話し合いの中でも前回の取り組みを参考に考えることができていたから。

9) 授業担当者感想等

今年度は、昨年度に学んだ内容を活かした実践を行った。学んだ内容とは、幼少期に養うことでその後の競技力向上につながる3つの力①コミュニケーション力②身体を養う（身体能力・神経系）③判断・決断力の要素，具体的には「加速」「減速」「切り返し・方向転換」の動き含む運動（遊び）を体験することが重要である。そして，その体験活動の内容を高校生が考えて，保育園児にスポーツ体験活動指導を行った。

① 6月13日

1回目の園児を本校体育館に迎えての，スポーツ交流・スポーツ指導実践を行った。体育館の入り口で園児を出迎え対面し，挨拶や自己紹介，簡単な準備運動を全体で行った。

その後は，3グループ（園児10名程度）に分かれて3か所で，それぞれ異なったスポーツ活動1グループ約10分の活動が始まった。

10分の活動を行い，5分間の水分補給と移動・休憩とした。

はじめは互いに緊張気味ではあったが，事前の関係性づくりの甲斐もあり，すぐに距離感は縮まったように感じた。

外部講師の芹沢氏から学んだ，園児との接し方やしゃべり方，説明のポイントなど工夫しながら，高校生は園児と一緒に活動することができていた。

活動後には，園児へのインタビューを行い，「楽しかったですか？」「どんなところが楽しかったですか？」などと活動の振り返りを行っていた。リーダー役となった生徒が園児への言葉がけや説明の仕方が分かりやすく，園児が汗をかきながら楽しめていたのが印象的であった。

② 10月28日

2回目の園児を本校体育館に迎えての，スポーツ交流・スポーツ指導実践を行った。2回目の今回は，1回目よりも運動量・運動強度などを高めた運動を計画して園児に活動をしてもらった。今回はボールを使った運動があり，ボールを手で打ったり，飛んできたり転がってきたボールを捕って投げたり，ボールに当たらないように逃げたり，飛び越えたり，ボールを蹴っての的を狙ったりと，1回目の運動よりもルールと活動の難易度を高めた活動を行った。ボールを見て当たらないように逃げる動き「見て」「判断して」「動く」という活動は，判断力・決断力，そして身体を思い通りに動かす能力が養われる運動となっていた。また，園児同士でボールの行方を伝えあうコミュニケーション力も必要である運動を，遊びの感覚で体験することができていた。

③ 1月14日

3回目の園児を本校体育館に迎えての，スポーツ交流・スポーツ指導実践を行った。3回目の今回は，2回目の活動をアレンジして，ボールの大きさや数を

変化させたり、追いかけてこをする「場」を大きな台やコーン、マット等の障害物を設置し変化をつけ、工夫をして活動を行った。その「場」を見ただけで、「何をするのだろうか」とワクワクさせる環境をつくることができていた。これまでの2回のスポーツ活動を実施した経験や反省から、より園児たちの「楽しい」「おもしろい」に近づいた運動（遊び）を提供することができ、3グループの活動とも、園児から「もっとやりたい」「もう1回っ！！」などという発言が聞かれた。芹沢氏による講義の「良い交流」を示す園児からの発言や反応を引き出し、高校生もこの交流活動への努力が報われたように感じているのではないだろうか。

【まとめ】

スポーツマネジメント科は、この活動のテーマを“スポーツで「健幸」な地域づくり”～スポーツを通して「健康」「幸せ」な状態を創造する人材になる～として活動した。そして、この活動を行うことで高校生は地域を愛し、地域からは愛されるようになることに繋がっていくのだという思いで取り組んできた。“新たなスポーツ機会の創出”“多様なスポーツ機会の提供”“スポーツ体験イベントの開催”はどれも高知県の課題に対する横断的に関わる政策である。それを本校のスポーツマネジメント科の生徒が“多世代との交流”を加えて実践したものである。

活動を通して生徒は、特にコミュニケーション力、課題発見・解決力、察する力、失敗から学ぶ力の伸長を感じることができている。体格も理解力も大きく異なる園児との交流ということで、接し方、使用する言葉、しゃがんで目線を合わせるなど、普段の生活では気にしなくても良い部分に気を配り、そこにこそコミュニケーションを円滑に行うヒントがあることを実践の中から学んだのではないだろうか。

スポーツに関わるスポーツマネジメント科の生徒が、地域の人と関わり共に活動を通して、その年代に応じた運動メニューを提案することにより、運動を楽しめる資質や能力を高め、生涯に亘り運動に関わり「健康」で「幸福」になる力を身に付けることに少しでも寄与できたのであれば、嬉しく思う。10年後、この園児の中から本校に入学し伝統ある高知商業高校を担ってくれる生徒が現れることを期待している。

10) 授業風景（画像）

▼6月10日 スポーツマネジメントⅠⅡⅢ授業

3年生が1年生を園児に見立ててスポーツ指導をしている場面と、その活動を芹沢氏が見てアドバイスをしている場面



▼6月13日 スポーツマネジメントⅢ授業 塚ノ原保育園とのスポーツ交流①



▼10月28日 スポーツマネジメントⅢ授業 塚ノ原保育園とのスポーツ交流②



▼12月16日 スポーツマネジメントⅠⅡⅢ授業



▼1月14日 スポーツマネジメントⅢ授業 塚ノ原保育園とのスポーツ交流③

